



### 「南無阿彌陀仏はどう読む?」

慈光照護のもと、門信徒の皆さまにはますますご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存じあげます。

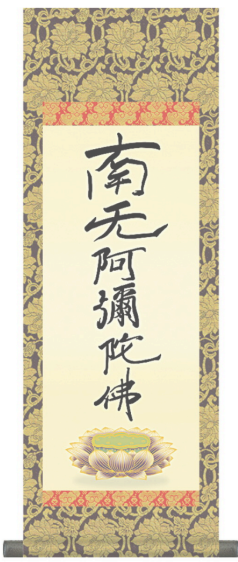
あるご門徒さまのお宅に月参りに伺った時のことです。「浄土真宗は南無阿彌陀仏ひとつだというが、そんなに大切な南無阿彌陀仏なのに「なむあみだぶつ」なのか「なもあみだぶつ」なのか、はたまた唱和する時には「なまんだぶ」「なんまんだぶ」「なまんだぶつ」なのかはつきりしていないのはおかしいのではないか?」というご指摘でした。まったくその通りだと思います。

例えば本願寺派(お西)では「なもあみだぶつ」ですし大谷派(お東)は「なむあみだぶつ」です。親鸞聖人はお名号にも『南無阿彌陀仏』と、無ではなく无の字を使っておられましたし、インドでの発音は「ナモ」の方がより近いそうです。しかしこのように変化してきたのは、東西本願寺が分かれて以降のことのようです。お互いに特徴を出すためだったのでしょうか?お莊嚴や作法

本願寺新報お盆特集号をお届けしております。ご家族でお読みください。

などにも各派にさまざまの違いがあるのはみなさまご存知のとおりです。

住職は以前に何度か近くの月窓寺さま(浄土宗)で「ご法話をさせていただいたことがあります。浄土宗では「同称十念」という声に続いて「なむあみだぶつ」を四回、息継ぎをしてもう四回、九回目はゆつくり「なむあみだぶつ」十回目は「なーむあーみだーぶつ」とゆつくり称えながら礼拝(うろ覚えですが)と、作法がきっちり決まっています。この方がお参りするみなさまも声に出してお念仏しやすいですよ。一昨年の夏、阪北組の正賢寺さま(あわら市)が取り組んでいらつしやる、地域の子どもを集めての地藏盆とお泊まり会では、子どもたちが住職の「合掌」のあとに「なもあみだぶつ!」と大きな声で一回、まるで「いただきます!」のように称えていたように印象に残っています。このように、どう称えるかが決まっていれば声に出しやすいですよ。



人の聖鸞親  
名号六字

しゃるご門徒さまが本当に少ない気がしますが、念仏しているのは住職だけという法事が大半といっても過言ではありません。これでは、阿彌陀如来が南無阿彌陀仏の声の仏となつて、私の口を通して出てくださるのだと、いくら言ってもリアリティがありません。

住職自身の話になりますが、うちでは小さい頃に父母のことを「父ちゃん母ちゃん」と呼んでいました。ところが大人になると「父ちゃん母ちゃん」とは呼び辛く、かといつていままさら「お父さんお母さん」とも呼ぶことができずに、「すみません」などと、まるで店員さんに声をかけるような実に他人行儀な呼び方を何十年としてしまいました。お恥ずかしい限りです。認知症の母にたまに「お母さん」と呼んでみたりしますが、母からは「やめてー」と言われます。

自業自得ですな……。お念仏もそれと同じような気がします。小さい頃から口に出していれば恥ずかしい気持ちもないのですが、親が往生されて初めてお念仏と言われても、すぐに口から出るはずありません。ましてや『なんて言うかはつきり決まってる』としたら。

南無阿彌陀仏はお名号ですから阿彌陀さまのお名前です。阿彌陀如来ご自身が「我が名を称えよ」とおすすすめくださっています。こうなつたらもう「なまんだぶ」に決

めてしまいました😓。住職もいろいろ言いますが、中でも一番多いのが「なまんだぶ」だと思います。口に出したことがないと気恥ずかしいかもしれませんが、すぐに慣れますよ。ぜひ住職と一緒に「なまんだぶ」と称えてみてください。その声はそのまま仏さまそのものなのですから。

### 「永代経が厳修されました」

前号でもお知らせしましたが、去る七月一日・二日に当院の永代経法要が厳修されました。遠近各地より一日のお座には十名、二日には（住職が都合で勝手に時間を変更しましたので）一名のお参りでした。ようこそのお参りでした。写真は撮り忘れてしまいました💧。すみません。

### 「しんらんさま」

現在のNHKの朝ドラ『エール』では、作曲家の古関裕而さんをモデルにしていることはよくご存知だと思います。古関裕而さんは『六甲おろし』などを作られたことは有名だと思えますが、実は仏教讃歌の『しんらんさま』も作曲していらつしやいます。住職も大好きな曲です。みなさんもどうぞ聴いてみてください。例によつてQRコードを載せておきます。スマートフォンをお持ちの方はもちろん、お持ちでない方



しんらんさま

は若い方がお見えになつたら聴かせてもらってください。親鸞さまも、阿弥陀さまも、先立っていかれた方も、いつも『私のとなりにならつしやる』のですね。

### 「前任職の七回忌について」

五月二十三日にお勤めさせていただくはずだった前任職の七回忌と前々住職の五十回忌ですが、当院の報恩講の日（十月十六日）の午前中にお勤めさせていただこうと考えております。午前中の遅い時間に年忌法要をお勤めし、お参りのご門徒さまにはそのまま本堂でお齋を召し上げようかと思っております。九月には護持会費のお願いと報恩講のご案内の寺報をまたお配りいたしますので、そのときにはきちんとしてお知らせができると思えますが、十月十六日（金）はどうぞご予定を入れておいてくださいね。

前々住職五十回忌・前任職七回忌  
**十月十六日（金） 午前の予定**

※今月二十六日の祥月命日には寺族のみで法要を勤めさせていただくつもりです。

### 「お盆には仏教に親しもう」

今年にはコロナ禍でなにかも変わってしまったかもしれません。これからどうなるかも誰にもわかりません。自粛するのか旅行に行くのか……いたい誰の言うことを聞いて行動すればいいので

しょうか。こんなときこそ、二千五百年の歴史がある仏教の中にヒントがあるような気がしてなりません。お届けした本願寺新報には、みなさまが日頃から疑問に思っていたことの解説がわかりやすくされていますので、ぜひお読みください。お若い世代の方が夏は帰省されないようでしたら、とつておいて次の機会に見せてあげてください。また、前号で本願寺のホームページのご紹介をしましたが、QRコードを載せた方がよかったですというご意見をいただきました。ここに載せておきます。また、十年前に住職がブータンに行ったときにご一緒した、千葉県の天真寺さまのホームページもご紹介しておきます。いつかは西光寺のホームページも作りたいです💧。

私たちが取り巻くすべてのものが変わりゆく中で、絶対に変わることはない真実である阿弥陀如来のお誓いを聴かせていただき、願われている身であることを一緒に受け止めて日々を送りたいものです。



天真寺ホームページ



本願寺ホームページ

住職携帯 090-18967-7902  
メール soichiro4989@gmail.com  
ブログ 西光寺で最高時！